

〈苦手な奴〉

藁を積みかえようと、今年の古いものを片付けていたら、ニョロっと動くものが！すぐにへびと分かった。急いでカメラを取りに行ったのだが戻ったらすでに消えていた。ものの10秒程度なので遠くに行っていない、隠れていそうな場所をどンドンと叩いたら顔を出した。大きさは70~80cmぐらいだろうか、体を巻いていたので全身が見えなかったのでおよその見当だ。正直こいつは昔から苦手な奴で突然現れるとびっくりする。



さすがに、若い子のように“キャッ”などと声は上げないが、“ニョロッ”が視界に入った途端、“ドキッ”としたのは確かだ。年に一度ぐらい畑で見かけるのだが、今年は初めての顔見せだ。苦手なお客さんではあるが、こいつのお陰でネズミが近寄らない。毎年藁を積んでおくと必ずネズミの巣がいくつか見つかる。冬でも暖かい藁の中はネズミにとって格好の住みか、繁殖にはもってこいの場所だ。そこに天敵のへびが棲みついたらたまらない。安心して子育てなどはできない。と言う自然界の厳しい掟の中で、ネズミは優良物件から泣く泣く出ていく羽目となる。ずっとずっと昔、まだ子供だった頃、押入れを開けたら青大将が出てきてビックリ仰天したが、ネズミ退治に一役買っていたのだ。苦手でもどうしても好きにはなれないけど、感謝の気持ちは間違いなくある。だけど、だからと言って好きにはなれない複雑さ。